

会議結果報告書

1. 会議名 令和2年度 第5回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和2年10月16日（金）9：30～11：30
3. 場所 204会議室
4. 出席委員：岩井会長、白川委員、小山委員、橋本委員、平林委員、福井委員
事務局：黒田、清田（環境保全課）
5. 傍聴者 0名
6. 配布資料
 - ・印西市環境基本計画（案）作成に対する提案（意見）＜案＞
 - ・平成31年度家庭部門のCO₂排出実態統計調査の結果（速報値）について
7. 内容
 - (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議題
 - ①市民・事業者合同会議での検討内容について
会長：市民・事業者合同会議の開始時間は9:30か。
事務局：9:30を予定している。主な議題は、環境白書案の説明、意見交換を考えている。
会長：参加事業者はどういった方々を予定しているか。
事務局：事業者会議を商工会、松崎工業団地協議会、イオンモール、竹中工務店技術研究所の4事業者に依頼しているが、当日の出欠はまだとれていない。
会長：参加事業者に聞きたい内容はあるか。
委員：環境白書案は市民事業者合同会議を予定する11月13日より事前にもらえるか。
事務局：環境白書案は委員に事前送付可能である。白書に関する意見会議は11月と12月に予定しており、11月に白書を見て頂き、意見を提出頂いた後、12月の会議でとりまとめる予定である。
会長：竹中工務店は、どのような事業者か。
委員：壁面緑化や屋根緑化など、環境関係の取組をされていると聞いている。企業としての環境活動について、テレビにも出ている事業者である。
会長：エネルギーゼロハウスに関する取組は何かやられているか。
委員：エネルギー負荷のかからない資材の研究をしていると聞く。住宅だけに限らず、工場地帯等、ゼロカーボンを実現するための秘策や、ゼロカーボンの企業への浸透度合いについて伺いたい。
会長：建設会社は断熱性能を向上させているが、電気からのCO₂排出をゼロにするためには、太陽光発電等が必要となる。東京電力から買電する面もあり、そこについて考えを聞きたい。

委員：市民と事業者で出来る取組について聞きたい。経営面など考慮すると難しい部分もあるだろうが、例えば、イオンであれば、印西でどのようなことができるのかということを知りたいと思う。

会長：イオンは小学生を対象とした環境学習会を開催しており、講師として呼ばれ、温暖化に寄与する実験をやったことがある。

委員：竹中工務店は、印西市の草地と水辺を再現するビオトープを作っている。もともとは小倉台小のビオトープを開発していた。そういった地域貢献をしているのではないかと。

会長：松崎工業団地はどうか。

委員：松崎台の谷津は、以前はすばらしい谷津であったが、公園づくりに谷津が活かされていない印象である。例えば、肝心なところにセメントを打ってしまい、水が正しくと流れないという状況になってしまっている。

委員：それぞれの事業者の環境に対する考え、対策について聞いてみたい。

会長：商工会が抑えていると思われるが、独自の取組があれば紹介して頂きたい。

委員：どれくらいの予算を環境に含めているか。特にコロナでダメージを受けて、世の中のほとんどの企業が、環境対策予算を減らしている。この状況下で優先順位は下がってしまうのではないかと、そのような生の話を聞いてみたい。

委員：逆に、事業者が市民に期待すること、何をやって欲しいかについても聞きたい。

会長：当日は有意義な会議としたい。市民・事業者合同会議での検討内容については以上とする。

委員：次の議題に移る前によいか。私は都市整備課が進める緑の基本計画の検討委員であり、緑の基本計画は今年見直し予定である。緑の基本計画は、環境や景観に特化した計画であり、計画内に重点地区がある。環境基本計画の提言案にグリーンインフラ特区という言葉が出てくるが、整合性を図った方が良いのではないかと。

事務局：担当課と連絡を密に打合せており、矛盾したものとならないように配慮をしている。

委員：国交省が今年4月に「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」を出している。その中で、生物多様性やグリーンインフラにおける緑の基本計画の重要性が位置づけられている。緑の基本計画に関する内容は環境基本計画の一部となると思うが、良いことが書かれているので、ご承知おき頂きたい。以上である。

②第3次印西市環境基本計画策定に対する提言（案）について

会長：議題2の環境基本計画への提言に移る。配布資料については、前回からの変更点が赤字となっている。

委員：グリーンインフラ特区については、具体的な提案や意見を盛り込んだ。

- 会 長：地名は具体的でないほうが良いのではないか。
- 委 員：環境保全課が管轄する別所（亀成川）、武西の原っぱ、草深の森や師戸川一带などとしてはどうか。
- 会 長：これらの地域はグリーンインフラに該当するのか。
- 委 員：グリーンインフラは、田んぼ、原っぱなど緑の地域は全て含まれるため、上記の地域は該当すると考えられる。
- 委 員：緑の基本計画にある緑化重点地区指定とは、環境基本計画提案におけるグリーンインフラ特区のことか。
- 委 員：その通りである。そのため、両計画の表現を統一して欲しいと考える。
- 委 員：P3の5.人づくりの冒頭に文章を入れた。環境110番については、今回の案に新設した。市民が不法投棄を見つけた際に通報する、子ども110番的な窓口を設置してはどうかという思いつきである。
- 委 員：監視社会みたいに思われる可能性もあり、なかなか難しい。環境110番なので、環境に関する疑問についても回答できると良いが、対応が細かくなることが懸念される。
- 会 長：具体的な対応部署はどこが想定されるか。
- 委 員：不法投棄はクリーン推進課、有害動植物は環境保全課と思われる。不法投棄を発見した際の連絡先は、すでに整備されているものがある。
- 会 長：市の受付が、全てを網羅することは難しい。
- 委 員：環境110番が設置すると、市が全て対処すると捉えられる可能性がある。過去に市に電話した際は、業者や県の窓口を案内されたのみで、期待外れに終わることもある。
- 会 長：市が電話の内容を全て対処出来れば理想だが、なかなかそうは行かない。環境110番について載せておいて、市の判断に委ねるのも一案か。
- 委 員：削除でよいのではないか。
- 委 員：5.人づくりの②環境保全のための市民参加（体験）の仕組み作りを、もう少し具体的に記述してはどうか。子供たちの環境教育についてはどうか。
- 委 員：以前に印西の自然探訪でイベントを開催したが、そのような活動に保全体験などを取り入れてはどうか。例えば、森林では草刈をする前に木の枝を拾う必要があり、そのようなことも保全体験の一つである。草深の森では、拾った木の枝を用いて、大きな鳥の巣、恐竜の巣、ピラミッド作る活動を何度か実施している。年に何回かでも自然体験を出来ればいいと思う。田んぼに一年携わるのは大変だが、最初だけでも知ってもらい、森や水辺は手入れしないと遷移が進み、変わってしまうことを伝えたい。
- 委 員：TV番組のように、池の水を全部抜く市民参加のイベントは可能だろうか。
- 委 員：いすみ市では、貴重なトンボがいるにも関わらず実施した例がある。また池に栓

がない場合は、ポンプアップとなり高額な費用がかかる。抜いた水の捨て場所を考える必要がある等、場所の選定が難しい。

会 長：④印西市の歴史・文化の伝承（中根、浦部の神楽等）について、神楽は今やっているのか

委 員：印西市ではまだ残っており、貴重なものである。自然環境や農業と結びつきがあるものだと考えられる。

会 長：大事な所であり、残しておく。

会 長：⑤環境フェスタについては、これで良いか。

委 員：印西広報にイベントのお知らせだけでなく、ごみ拾いや、森の整備等の環境に関するコラムがあるといいと考える。

委 員：⑥印西広報等での PR 等をいれて良いのではないか。

委 員：②について、仕組み作りとすると大がかりな印象を受けるため、②環境保全のための市民参加の後ろのカッコ書きを「保全作業体験講座の開設等」としてはどうか。

委 員：講座より体験会の方が適切か。もう少し語句について検討し、修正する。

委 員：P2 の 2. 生活環境⑥に師戸川の水質改善が唐突に出てくるのはなぜか。

委 員：師戸川の水質がずっと改善されていないためである。水質悪化が顕著等、趣旨が分かるよう経緯について記載する。

委 員：P2 の 1. 自然環境の⑤希少種について、サシバを入れてはどうか。サシバはベトナムからくる渡り鳥であり、ヘビを食べる。谷津が耕作放棄地になると、カエルやヘビがいなくなり、サシバも恐らく減少している。

委 員：サシバを入れることにする。ところでキツネは希少生物なのか。

委 員：キツネは千葉県ではレッドリスト B の希少生物である。草深原のキツネという昔話があり、印西市にとって馴染み深いものでもある。

会 長：ゲンジボタルは入っていないが、あえてヘイケボタルとしているのは理由があるのか。

委 員：ゲンジボタルは生息数が多く、サイズも大きいいため観光資源としての価値がある。一方、ヘイケボタルは田んぼのホテルであり、田んぼの荒廃により減少しているため、保全優先度が高い。

会 長：P2 の 2. 生活環境②プラスチック問題について、海洋問題から始まっている話なので、海洋プラスチック問題としてはどうか。容器包装法の中に、容器包装プラスチックが入る。あと 2 年くらいで全てのプラスチックを資源にするということになっている。

委 員：ごみの減量について記載するだけでなく、プラスチックを使うことが問題であることを提起してはどうか。

委 員：③合併浄化槽の普及を促進するとあるが、下水道がない所では設置が義務化され

ているのか。

事務局：合併浄化槽を入れなければならないという地区はない。

委員：新たに建てる場所は、設置する必要があると思われるが、単なる合併処理浄化槽ではなく、高度処理型の合併処理浄化槽の普及促進と、点検促進について記載してはいかがか。

委員：高度処理型の合併処理浄化槽の普及と、点検促進について記載する。

会長：④河川、水路、池への排水を制限する施策を検討するとは、具体的に何のことか。

委員：調節池に排水基準がなく、過去に大森川に白い水が流入したことがあるが、規制がないため、対策が出来なかったことがある。希少種を守るためにも、条例などを作るべきである。

会長：そのような悪排水の規制が可能か、詳しい方の意見を聞いてから検討した方が良いと思われる。

会長：⑤高齢者がより安心して暮らせる街作りについて、自動運転バスが高齢者の安全にどのようにつながるのか。

委員：自動運転バスという語句は外すこととする。

会長：何人か集まった際に、ふれあいバスをタクシーのように呼ぶことが出来れば便利だという意見を聞いたことがあるが、そのような利用は可能か。

委員：介護施設のバスは、事業所に利用者を連れてきた後はフリーになるので、その後に買い物に連れてく事例がある。

会長：高齢者は自転車での買い物等が負担となるため、そのような事例は便利だと思う。少なくともふれあいバスの拡充と活用といった記載を加えて頂きたい。

委員：交通過疎地か市内全域か、検討し、記載することとする。また、介護施設の拡充とあるが、なぜ環境基本計画に必要なのか。外してよいか。

会長：テーマが違うため外すこととする。

会長：2年前に市が宣言したクールチョイスを環境基本計画の中に記載する必要があると考える。環境基本計画の出だしに記載してはどうか。

委員：クールチョイスについて環境白書や現行の環境基本計画に記載されていないことを、市はどのように認識しているか。

事務局：2年前に宣言した内容であるため、現行の環境基本計画に記載がなく、環境白書も環境基本計画に基づいて作成しているため、記載がないという状況である。

委員：アンケートの結果がどうなっているか聞きたい。

事務局：アンケートは次々回の会議で議題とすることを考えている。次回会議は環境白書、事業者意見交換、自然環境調査発表と時間が取れない可能性がある。

事務局：アンケートは市民2,000人に送付し、回収率は45%となっている。一般的に他の自治体だと30%程度であれば良い方とされているので、非常に高い結果である。事業者は200送付しており、49%の回収率であり、市民事業者ともに回答率

は、他自治体より高い結果となっている。結果については、今現在とりまとめ中であり、11月13日には報告できると考えている。

会 長：アンケート結果を環境基本計画に反映させるのであれば、早めに結果を頂きたい。計画の内容について意見交換や検討するのは遅めでも構わないが、環境基本計画に市民の意識と事業者の意識があり、その基本となるのがアンケートであると考えるので、早めに見たい。

委 員：クールチョイスの整理に戻るが、ひとつは、クールチョイスを用語解説に入れることも含めてしっかり対応して欲しい。ゼロカーボンシティとの整理はどのようにすべきか。

委 員：ゼロカーボンシティを実現するための手段に、クールチョイスが含まれていると考えられるのではないか。

会 長：順番としては、①クールチョイス、②ゼロカーボンシティではないか。

委 員：時系列ではなく体系的に捉えると、①ゼロカーボンの要請とし、②そのための手段としてクールチョイスとした方がいいのではないか。

委 員：順番から行けば、①がクールチョイスではないのだろうか。

会 長：ゼロカーボンシティは、まだ決まっていない事項なので、時系列順の記載がよいのではないか。どちらにするかは、編集者の白川委員に一任する。

委 員：3. 都市環境「①土地利用や景観についての印西市のビジョンを明確にする」に、「都市の開発にあたって周辺の里山生態系に配慮して、エコロジカルネットワークの形成に努める」を入れて、内容を補完して頂きたい。都市開発をする際は、周辺の環境に溶け込む景観が必要であり、生態系に配慮して、その生態系が途切れないようなネットワークの形成のひとつとして都市づくりをして欲しい。

会長より配布資料平成31年度家庭部門のCO₂排出実態統計調査の結果についての説明

会 長：本資料は、直近3年間で22%のCO₂が減っていることを示すデータであり、ゼロカーボンシティの実現可能性を示す根拠としたい。また、市長談話室に訪問し、市長を説得してゼロカーボンシティを宣言してもらう必要がある。事務局からは黒田さんに同行して頂けるが、市民会議の委員にも同行して頂きたい。日程と場所が決まったら再度相談をする。

事務局：11月の市長談話室日程はまだ決まっていないが、第2週を予定している。場所は印旛支所であり、狭い部屋のため、人数は一人か二人でお願いをする。

委 員：先ほどの資料で、CO₂が20%減ったのはなぜか。

会 長：照明がLEDに変わったことが大きいと思う。エアコンもヒートポンプ等高効率機になったことも一因である。現在22%が減っているので、ゼロカーボンシティへの目標はずっと遠いものではなく、あと半分程度のものである。

委 員：宣言するだけでは意味がないため、具体的にゼロカーボンシティ実現に向けた取

組を書くべきである。2050年までたった30年しかない。

会長：環境基本計画に遠大な目標として記載し、温暖化基本計画に市民レベルの対策について記載することが考えられる。地道な計画を積み上げて、2050年のゼロカーボンを実現するが、まずは遠大な計画を立てるということである。ゼロカーボンシティを宣言する自治体は、現在159自治体あり、毎月増えている。あまり遅く表明すると目立たなくなるので、早めに宣言したい。

事務局：市長談話室は日程が決まり次第連絡する。また、手賀沼流域協働調査を12月に予定しており、可能な方は参加をお願いしたい。次回の市民会議は11月13日とする。

以上

令和2年度第5回印西市環境推進市民会議の議事録は、事実と相違ないことを承認する。

令和2年11月13日

委員 福井 章夫

委員 岩井 邦夫